

あらい きんすけ
荒井金助

荒井金助、本名直盈^{なほみつ}。文化5（1808）年～慶応2（1866）年。「石狩改革」の現地責任者。

安政2（1855）年、ロシアの脅威を懸念した幕府は、松前藩が治めていた蝦夷地を再び幕府直轄領とし、西蝦夷地の行政の中心とするべく、石狩場所改革を進めました。安政4（1857）年7月、荒井金助は函館奉行支配調役並を命ぜられ、石狩役所に着任、7年間在任して石狩場所改革を実行しました。

石狩場所改革は、（1）場所請負制の廃止、（2）教育機関の設置、（3）産業の振興、の3点を中心に進められました。（1）については、安政5（1858）年に場所請負制度を廃止し、函館奉行所の直掬（じかさばき・直接経営のこと）としました。（2）については、石狩に学館や剣、弓、鉄砲の道場を建て、在住者の子弟の教育を積極的に進めました。

（3）については、万延元（1860）年に自費で農民十余戸を募って篠路に入殖させ、厚田村望来にも農民十余戸を募集して管理しています。また、巡視の際、空知地方で石炭を発見したり、望来の海浜に石油の湧出を見、山中を調査して油田を発見しました。安政6（1859）年、石狩役所を石狩川左岸から右岸のワッカオイに移し、役所を新築しました。このことにより石狩川兩岸に町ができました。以上のような改革を実行した金助は、「石狩の地、他日必ず一都府となり、天皇の臨幸を仰ぐべし」という言葉を残しています。

文久3（1863）年9月、金助は石狩から函館へ異動となり、慶応2（1866）年11月、五稜郭の堀に落ちて亡くなりました。享年58歳。

（三島照子）



- （1）石狩市教育委員会文化財・博物館開設準備室（2001）ふるさといしかり。石狩教育委員会。
- （2）石狩町（1972）石狩町史／上。石狩町。